座談会

『災害時ココイコMAP』制作で何が変わったか！

【出席】 災害時ココイコＭＡＰプロジェクト

プロジェクトリーダー
中西　利枝 氏
A cote FP office ／代表
（高松第1支部）

プロジェクトメンバー
洲崎　文 氏
㈱大渚亭／取締役
（高松第2支部）

プロジェクトメンバー
長谷　真里 氏
長谷ぶどう園／代表
（高松第7支部）

【司会】 広報・情報化委員会

編集長
三好　幸司 氏
㈱三好製作所／代表取締役
（高松第4支部）

昨秋、「香川ビジネス＆パブリックコンペ２０２２」パブリック部門グランプリ受賞に輝いた「災害時ココイコＭＡＰ」。災害時に企業ができる避難支援のＭＡＰづくりから始まった活動のいまと、これからを聞く。

『災害時ココイコＭＡＰ』とは

司会　早速ですが長谷さん、昨年始まった「災害時ココイコＭＡＰ」について簡単に説明していただけませんか。

長谷　「災害時ココイコＭＡＰ」の制作は、昨年の女性委員会の洲崎グループの例会が始まりです。災害時に女性として、あるいは中小企業の経営者として地域の人たちにどんな支援ができるかをみんなで話し合いました。私自身はそのときの例会づくりには関わっていなかったのですが、実際に例会に参加してとてもいい取り組みだと感じ、できればこの活動をもっと知って欲しいと思いました。

ちょうど、地域事業構想サポートプロジェクト実行委員会主催で、香川大学大学院地域マネジメント研究科共催の「香川ビジネス＆パブリックコンペ２０２２」の応募時期であり、応募を勧めました。これは香川県の地域活性化をテーマにしたコンペで、ビジネス部門とパブリック部門の両方でプランを募集するものです。本音をいうと、ひとりでも多くの同友会の会員さんに知ってもらいたいという願いがありました。

お陰様でグランプリを受賞し、皆さんに高く評価していただき、理事会で全県の取り組みが決まり、女性委員会の取り組みから独立してプロジェクトチームが発足しました。これが発足までの経緯です。

はじまりは女性委員会の例会から

司会　長谷さんからお話しのあった「災害時ココイコMAP」制作のきっかけとなった洲崎グループの例会について、洲崎さん聞かせてください。

洲崎　はい。昨年9月地域の防災を考える例会をしました。被災経験がある岡山県真備町、日の丸タクシーの平井氏にご報告していただき、5年前、西日本豪雨で平井氏が自社の2階を避難所に入れなかった人たちのために開放した経験を聞き、地域の人たちと生き残るために自分たちの企業は何ができるかを考え、それを常に意識していくためには何をすればいいかを話し合いました。その結果、ココイコMAPを作成することになったのですが、そのときのマップは、避難所に入れない人の一時的な避難場所や、自治体からの支援が届きにくいといわれる発生時3日間に、それぞれの企業では何が提供できるのか、私たちは女性委員会なので女性ならではの目線で、何が必要なのか検討しながら例会で考えました。

活動の中で変化した地図制作の目的

長谷　その後、地図制作の目的が備蓄品に変わっていった経緯についてお話しします。グランプリ受賞の祝賀懇親会の席で、国の防災に関わった方から、「皆さんのプランは素晴らしいと思いますが、事業所を避難所として実際に使ってもらうことになると損害倍賞が発生する可能性があります。被災者を受け入れた場合、例えば被災者が皆さんの事業所に避難する途中で車の水没などの被害に遭うとか、建物の耐震化が整備されていなかったために倒壊するなどです」という、はっとするような指摘がありました。

　そこから改めて高松市などにアドバイスを求めた結果、避難支援や避難対応は消防や地域のコミュニティが行っていることがわかりました。それなら私たち事業者は備蓄が少ない食料品などの支援を行おうという方向に変わりました。

司会　避難所としては難しいけれど、物資の支援ならできるのではないかという視点に変わったわけですね。

長谷　そうです。

長谷真里氏

司会　「ココイコ」ではなく「ココアルMAP」ですね。

長谷　その通りですね。その後、本当に災害が起こったときの避難支援や避難所での対応を行う地域の人たちにじっくりと話を聞きましょうということになり、既に木太町でマップづくりが始まっていたので木太町での取り組みが始まりました。

司会　木太町のコミュニティとの連携だと思うのですが、感触はどうですか。

中西　木太町での会議には

大勢の参加がありました。今までは個人での支援や手伝いはあっても、中小企業が支援しますということはなかったということで、それぞれに関心や興味を持ってもらえたようです。

変わった意識とプロジェクトチームの発足

司会　行政、いわゆる県や市ではこのような取り組みは今までなかったのでしょうか。

中西　県や市、防災センターなどに行き、私たちの取り組みについて話をさせてもらいましたが、痒いところに手が届かないではないですが、そこまでの情報は持っていないので、我々がそういう情報を伝えることによって連携ができれば非常に助かりますという話でした。

　ではそのために、どこにどんなものがあるかをマップやアプリで示せば、不足していたり、必要なものがあるときはあの企業にお願いというふうに適切な対応ができます。また同友会会員企業の横の連携もあるので、その点は同友会でカバーできると考えました。

司会　女性委員会を中心に発足した「災害時ココイコMAP」の活動ですが、今回同友会として正式にプロジェクトチームができることが決定しました。このことにどういう意味があるのか。もう一度順を追って聞かせてください。

中西　はい。基本は女性委員会の例会から波及してきたものですが、ただ女性だけが取り組むものではありませんし、例えば木太町の地図を見ると、この地域にもたくさんの会員企業が存在します。それらの企業が協力して地域を守るために自分たちには地域のためにできることがたくさんあることがわかりました。それを県全体に広げていくために「災害時ココイコMAP」のプロジェクトチームをつくることになりました。

　ただ、自然災害が少ない県なので、災害に対する備えを始め、防災に対する意識が薄い企業が多いように見受けられます。同友会としての企業づくりを考えると、やはり災害時に会社としてどう向き合うかを社員や家族と話し合い、その上で地域との連携をということでプロジェクトチームを発足したのも一つの理由です。

　災害発生時には、例えば木太町の会員企業さんが中心になって地域を守るというふうに、それぞれの地域で同様の活動を展開していきます。ですから、より一層

洲崎文氏

の横の繋がりが求められるわけです。ただ、今回はモデルケースとしてまずは木太町からスタートということです。

様々な取り組みの中で得た「気づき」

司会　この一年近くいろいろな活動をされてきたかと思いますが、活動を通してどういった気づきがありましたか。

長谷　そうですね。大きな変化はBCPに関してです。プロジェクトを立ち上げたときに林代表理事が「この取り組みはボランティアではありません。必ず自社のためになる取り組みにしてください。そのためにもBCPは盛り込んでほしい」という話からももちろん気づきがありましたし、また例会での平井氏のお話しからもBCPの重要性がわかりました。これは大きな気づきだろうと思います。

また、地域の人たちから、「皆さんの事業所が被災したとしても、一日でも早く復旧して事業を継続してくれることが地域のためになるんです」という話に感動すると同時に、頑張ろうという思いを募らせました。

洲崎　一年前のスタートは、自分たちが地域にできることは何かを考えていたのですが、木太コミュニティの防災担当の方に「もし災害が起こったときに、何をしてほしいですか」の問いに、「まずは地域の企業の方は自社を継続できることを考えてください」の言葉が、私はすごく腹に落ちたんです。すごく分かった。どのような災害が起こっても、何が起こっても、自社存続が絶対的に必要で、「継続していてくれたら私たちの生活はすぐに戻れる」という地域の人たちの言葉に、いつも同じ場所で同じように灯りがついていることが大事で、それが地域の人たちの安心、安全になること、災害はない方が絶対にいい。でもいつ起こるかわからない、どんな災害が起こっても、何があっても継続できる方策を具体化しておくことが大切だと思いました。

中西利枝氏

中西　BCPに関しては恥ずかしい話ですが、それまであまり考えていませんでした。ただ、今回の活動を通じて、自社は何もできていないというか、してこなかったことに気づき、BCPチェックリストを始め、避難時の連絡網など基礎的な事柄を社員と話し合い、情報を共有しました。

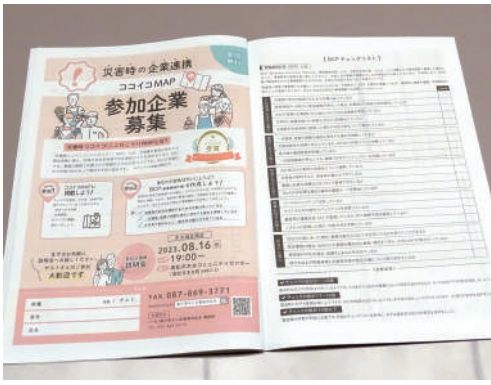
危機管理など、今まで他人事だったことに真剣に取り組んだ一年ですが、取り組みから得た気づきの一番

大きなものは意識の変化だろうと思っています。

描く未来図は？

司会　それでは今後、どのような活動を考えておられるのか聞かせてください。

中西　最初に今までの取り組みについて少しお話しします。小さなコミュニティの中での助け合いをテーマに、まず話し合いをしました。それから備蓄品について一度しっかり考えてみようとワークショップを開催しました。災害時、ライフラインが止った中での調理体験や自宅での備蓄品、食料だけでなくトイレをどうすればいいか等々、生活に欠かせない事柄について講習会も開きました。



今後はこの取り組みを続けながら、その中で変化していく私たちの意識や視点を軸に、様々なチャレンジをしていく予定です。

司会　ありがとうございました。おそらく皆さんの活動の広がりで、これから多くの会員さんが関わっていくことになると思うのですが、会員さんに向けてメッセージをお願いします。

中西　先ずは、今までの「災害時ココイコMAP」の取り組みを会員の皆さまに知っていただきたいというのが第一番です。それによって災害の少ない香川県ならではの防災意識の低さや、取り組みの少ないBCPに対して、香川同友会全体として、その向上が図れたらという願いがあります。

そして、万が一の被災時に備え、地域との連携を取りながら中小企業だからこそできる準備を同友会企業として一緒に行っていきたいと考えています。

そのために一社でも多くの会員の皆さまにはぜひこの取り組みに参加していただきたいです。

司会　ありがとうございました。皆さんのお話しから、少しでも関心を持って行動してくれる会員企業さんが増えることを期待しつつ、本日の座談会を終わりたいと思います。皆さん、本日はありがとうございました。

三好幸司氏